

## ■発行

国立大学法人群馬大学  
ダイバーシティ推進センター

〒371-8510  
群馬県前橋市荒牧町4-2  
TEL: 027-220-7146  
FAX: 027-220-7143  
mail:kyodo-sankaku@jimu.gunma-u.ac.jp  
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/



2023.3

vol.31

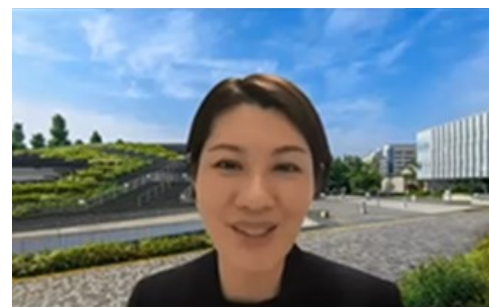
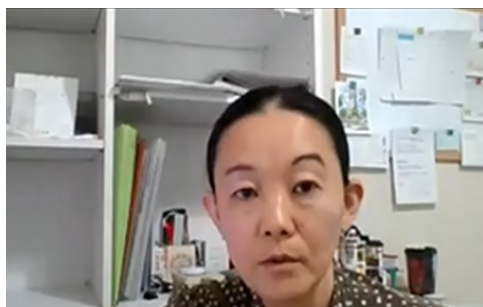
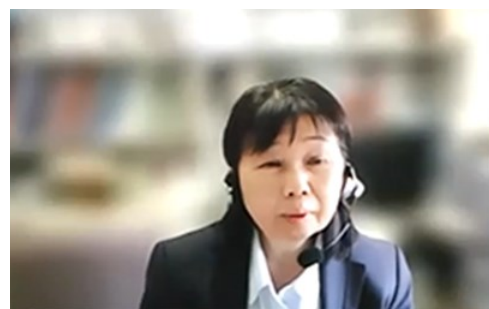


## ダイバーシティ推進センター 総括シンポジウム 開催

群馬大学では、平成29年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（特色型）に選定され、学長のリーダーシップの下、中長期の視点に立った着実な女性の採用と一層の研究環境整備を進めてきました。令和4年度、最終年度を迎えるにあたり、令和4年11月22日、「大学でなぜダイバーシティが必要か？」をテーマに、基調講演に治部れんげ氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授）、講演に星野歩子氏（東京工業大学生命理工学院生命理工学系准教授）の2名をお招きして、ご講演いただきました。

経済ジャーナリストの治部氏は、大学が取り組むダイバーシティの多様性やインクルージョン（包摂）について、ESG投資、すなわち、環境問題、労働問題、人権問題、ガバナンス上の問題など、社会が抱えている課題を長期的な視点に基づき投資していく必要性や、rare（希少）の共有、少数派体験などの実例を交えた学生教育についてお話しいただきました。エクソソームに関する若手研究者の星野氏は、がん転移に関わる研究生活について、サイエンスを学びたい、チャンスはつかみ取る、臨床につながる研究へ、とご自身の研究に対する熱い思い、また、海外経験を踏まえ大学での研究環境にダイバーシティを取り込む工夫について語っていただきました。

Web開催で118名が参加した本シンポジウムは、大学におけるダイバーシティや女性研究者の活躍について、深く学ぶ機会となりました。





## 第13回 ぐんまダイバーシティ 推進地域ネットワーク会議 開催

令和4年11月8日（火）、第13回ぐんまダイバーシティ推進地域ネットワーク会議をオンラインで開催し、機関代表者及び関係者16名、群馬大学関係者7名が出席しました。会長の挨拶と出席者の簡単な自己紹介から始まり、報告事項では、各会員機関から情報共有事項の説明、シーズ集の現状報告、令和5年度副会長校の選出、がありました。他に、大学内での女性教員を増やす取組み、LGBT研修の取組みについての情報交換も行われました。

会議終了後は、学校法人高崎商科大学高崎商科大学附属高等学校の大澤香代子教頭による講演会「教育現場から見た女性の現状とこれからの活躍に期待すること」を開催し、本ネットワーク機関の教職員、学生ら62名が参加しました。講演では、女性教職員の現状（女性・女性管理職の割合、女性の年齢階級別労働力の推移等）、女子高校生の進路希望と働き方の意識調査（アンケート結果）、女性が卒業後、社会で活躍するために（社会的制度の確立、女性の意識変革等）等についてお話いただきました。今後も会議とイベントなどで情報交換の場を設けながら、各機関とのネットワークの構築をさらに続けていきたいと思えます。



## 理工学部 大学院進学を考える講演会 開催

令和4年11月30日、理工学部において全学生を対象に大学院進学を促す講演会を開催しました（会場とオンラインのハイブリッド形式）。講演者4名（OG、教員、両立支援アドバイザー、現役大学院生）により、大学院に進学した動機、研究内容、就職、将来についてなどをお話いただきました。当日は103名（会場38名、オンライン65名）の内、学生84名、教職員その他19名の参加がありました。

アンケート結果では「大学院進学が気持ちが強まった」「選択肢に入れてみようと思った」の回答が約85%ありました。感想では「OGや現役大学院生の話が参考になった」「漠然としていた進学への不安があったが、将来像が少し鮮明になった」「進学で進路が狭まるのではなく、選択肢が広がるのが魅力だと思った」などがありました。学生に進路やキャリア設計、ライフプランを考えてもらう良い機会になったと思えます。今後も学生にとって将来を考えるヒントになるようなイベントを企画していく予定です。







## 令和4年度 医学系ダイバーシティ 推進委員会セミナー 開催



令和4年度医学系研究科ダイバーシティ推進委員会セミナーが、10月31日に刀城会館とオンライン配信によるハイブリッドにて開催されました。今年は東北大学東北メディカル・メガバンク機構バイオバンク部門ゲノム予防医学分野教授 大根田絹子先生をお招きし、「一般住民を対象とした個別化ゲノム先制医療の推進—東北メディカル・メガバンク計画における遺伝情報回付事業—」と題してご講演を頂きました。大根田先生は臨床医から研究職へ、さらに研究室の立ち上げと大学組織の構築に関わるこれまでのご

経歴は非常に幅広く、そのご経験すべてが現職に活かされているとのことで、現在のゲノムコホート事業では大変層の厚いお仕事と感じ入りました。血球分化に関わる転写因子解析のご業績から、高崎健康福祉大学ではフリーザー1つから研究室を立ち上げ、70人もの卒研生(薬剤師)を送り出されたバイタリティーに感銘を受けました。現在は大学教員に求められる能力が広がっており、組織を作り上げるリーダーシップや異分野の研究者・企業と共同できる能力が必要であること、さらに個々の強みが発揮できる組織づくりが必要であることなど、非常に参考になるお話でした。教育においても自分のコピーでは不十分で、学生のキャリアパスは多様化していることを伺いました。今回、ゲノム・オミックス解析分野をけん引する女性リーダーの大根田先生のお話を頂戴し、大変有意義なセミナーでした。



## 令和4年度 医学生・研修医等を サポートするための会 開催

令和4年12月21日、群馬県医師会主催で、「令和4年度 医学生・研修医等をサポートするための会」が開催されました。本会は、医学科4年生の臨床実習前講義として、男女共同参画やワークライフバランスについて考える機会となっており、医学生以外にも研修医、上級医にも参加いただきました。医師会の活動について、医師会理事の渡邊秀臣先生にご紹介いただいた後、パネルディスカッションでは、「Will?・Can!～予想不可のキャリア形成～」と題して、医学系研究科生化学教授 南嶋洋司先生、総合医療学教授 小和瀬桂子先生、医学教育開発学教授 岸美紀子先生の3名に、それぞれの学生時代の様子や卒後のキャリア形成についてご講演いただきました。南嶋先生には、研究者の道を進まれる中、何度も挫折を経験し、keep faith (信念を貫くこと) の重要性についてお話しいただき、小和瀬先生には、大学院や留学先でのご経験や言語の壁、現在ご所属の総合診療学における興味について、岸先生には、基礎研究者として大学教官として、立場を変えながらも、仕事を継続し社会貢献につなげたいという強い意志を伺うことができました。“迷ったときには両方やってみる”、“大変なことを選ぶ”、という先生方の姿勢に対して、閉会后、多くの学生から“keep faith”に共感する感想が寄せられました。





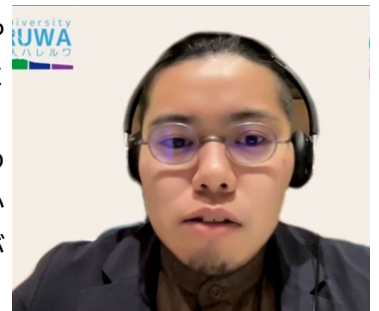
## 性多様性って何だろう？

-互いの違いを受け入れられる社会を目指して- 開催

令和5年1月10日、リモート講演として、群馬の唯一の支援団体「ハレルワ」の間々田久渚代表とメンバー2名の方をお招きし、性の多様性講座を開催しました。講義の学生も含めて275名の参加がありました。

ハレルワは平成27年6月に発足、群馬県の当事者支援をはじめ、行政職員や学校での意識啓発に尽力してきました。LGBTQ(セクシュアル・マイノリティ)の人の割合は3~10%と言われています。「セクシュアルマイノリティの方に会ったことがない」という人もいますが、当事者が見えない理由は、差別、偏見、困難があるからです。メンバーの貴重な体験談を交えながら「とりあえず今をがんばって生きていけたら」とお話くださいました。周囲に理解がないと、当事者は言いたくも言えない状況に陥り、小さなうそをつき続けるといけなくなってしまいます。つながりあうことで、「一人じゃない、自分らしくしてもいい」と思えるそうです。

パワハラ防止法の中で、性的指向や性自認に関する侮辱的行為や個人情報の同意のない暴露(アウティング)は、個の侵害であると規定されました。LGBTQの当事者にとって課題は山積みです。困りごとにぶつかる度に孤立してしまいます。いじめられた経験を持つ人は68%、自殺を考えた人は32%にのぼります。「ハラスメントかなと思った時に、おかしいことはおかしいと言ってくれると社会が変わっていく」と間々田さんは締めくくられました。



## フォント 変更の お知らせ

ダイバーシティ推進センターでは、まゆだま通信に使用するフォントをUDフォント※に変更しました。一般の人はもちろん、障がいのある方、高齢の方、外国籍の方など皆が見やすいよう配慮したフォントです。最近では高速道路の標識をはじめ、公共機関の案内版にも視認性が良いUDフォントへの変更が進められています。

**あ** ダイバーシティ推進センター  
あ ABC 123 ?! UDフォント

UDフォント(BIZ UDゴシック)

**あ** ダイバーシティ推進センター  
あ ABC 123 ?! UDフォント

従来使用していたフォント(MS明朝)

※UDフォントとは  
生活する上での「使いやすさ、見やすさ」の部分にも配慮・工夫をして、できるだけ多くの人を利用可能であるようなデザイン(Universal Design)に基づいたフォント

